

恐るべき慧眼、

旧熊本藩主細川家の16代目細川護立が集めた、
日本美術史に残る名品の数々。



肥後熊本五十四万石の大名家で
あり、明治時代には侯爵に叙され
た名門、細川家。

その700年の歴史を誇る細川

家に伝わった文化財を保存、研究、公開するのが
永青文庫です。

細川家の名宝は、第二次大戦後に散逸するおそれ
がありました。爵位制度解体の中で、細川家の存続
を図った第16代当主、細川護立(1883-1970)
は、これを危惧して速やかに「財団法人 永青文庫」
を設立(1950年)。細川家の伝世品と美術工芸品
の散逸を防ぎました。その後、永青文庫は1972
年に所蔵品の一般公開を開始。東京、目白台に建つ
細川侯爵家の旧家政所(事務所)が美の殿堂となり
今に至っています。所蔵品の数はおよそ9万4千
点、その中には国宝8点、重要文化財32点が含まれ
ています。

永青文庫の設立者、細川護立は、先見の明を持つ
美術蒐集家でもありました。蒐集の対象は幅広く、
近代の日本画、洋画、近世の禅画、刀剣、唐三彩など。
今でこそ白隠や仙屋の禅画は不動の人気を得てい
ますが、護立が蒐集を始めた当時(1900年頃)

は、ごく限られた好事家のみが蒐集の対象としてい
ました。菱田春草や横山大観についても似たような



細川護立侯

ことが言えます。護立の回想によれば、1908
年、水戸の展覧会で護立は初めて春草や大観の絵を
購入していますが、当時「朦朧体」と酷評されていた
のが原因か、その展覧会で彼らの絵を購入したのは
護立ただ一人だったといえます。

2017年、名古屋市美術館と中日新聞社は、公
益財団法人永青文庫の全面的な協力のもと、細川
護立が集めた①近代の日本画(横山大観、王村松園、
鏑木清方など34点)と、②江戸時代の名僧、白隠と
仙屋の禅画(23点)の名品を展覧します。3点の重要
文化財、菱田春草の《落葉》、《黒き猫》、小林古径の
《髪》など、文部省美術展覧会や日本美術院展覧会の
出品作、受賞作が多数陳列される稀有な機会となる
でしょう。2016年、東京での相次ぐ展覧会の開
催で脚光を浴びた禅画とともに、日本画を愛好する
皆様にぜひ楽しんでいただきたい展覧会です。

作品保護のため、会期中に展示替えを実施します。
多くの作品が期間限定の公開となります。
各作品の展示期間は展覧会公式サイトでご確認ください。
<http://www.chunichi.co.jp/event/eiseibunko/>

前期 1月14日[土] - 2月 5日[日]

後期 2月 7日[火] - 2月26日[日]

①小林古径 《髪》 昭和6年(1931) 永青文庫所蔵(熊本県立美術館寄託) ※後期展示

②仙居梵苑 《臘月夜図》 江戸時代(19世紀) 永青文庫所蔵

③横山大観 《山路》 明治44年(1911) 永青文庫所蔵(熊本県立美術館寄託) ※前期展示

④上村松園 《月影》 明治41年(1908) 永青文庫所蔵(熊本県立美術館寄託) ※後期展示

⑤白隠慧鶴 《蓮池観音像》 明和4年(1767) 永青文庫所蔵



名古屋市美術館
Nagoya City Art Museum

〒460-0008 名古屋市中区栄2-17-25
「芸術と科学の社・白川公園内」
TEL 052-212-0001 FAX 052-212-0005
<http://www.art-museum.city.nagoya.jp>



芸術と科学の社